

「アメリカで何をつかみ取りたいか」

北海道帯広農業高等学校 酪農科学科 2年 江頭ひかる

私は、占冠村上トマムに生まれ、今まで17年間住んできました。占冠村は北海道の中央より少し南に位置し、地名はアイヌ語のシモカプ（非常に静かな流れの上流の意）に由来。日高山脈と夕張山地に囲まれた鵲川の最上流域に位置する山間の村です。昔はとても林業が盛んで人もたくさん住んでいましたが、今は減少し人口は1,251人で私が住むトマム地区では、318人です。人口は少ないトマム地区ですが、人のつながりが強く、世代を超えた交流が多く子供から大人まで、住民同士がわきあいあいと楽しく過ごしている地区です。お花見会や夏祭りなど地区のみんなで協力して作り上げる行事が多く、大変ですがこの地区の魅力の一つです。また、自然がとても豊かな場所で小学校のとき授業の一環で「川の学校」というものがありました。川で魚を取ったり川の昆虫について学んだりしました。そういった地域の自然を生かし遊んで学べるというところもこの場所のもう一つの魅力だと思います。

今この村の主幹産業は林業から農業へ代わり、畑作と酪農を営む農家がそれぞれ数件あります。我が家も農業を営んでいます。今から22年前に福岡県出身の父が新規就農し、開墾から農業を始めました。今住んでいる家は、周りの人に少し手伝ってもらいながら父が建てました。また畜舎や飼料小屋も家族で協力しながら建てたものです。お風呂は家から50メートルのところにある五右衛門風呂を毎日たいは入りに使っています。

現在私の家で飼育している家畜は牛、山羊、羊、豚、鶏、うさぎです。野菜は完全無農薬で、約50種類程度を栽培しています。家畜の牛、山羊、羊、豚は放牧し、鶏は平飼いをして家畜にストレスを与えない飼育方をしています。野菜には、家畜の糞尿の堆肥を使用し、野菜くずが出たときは家畜に与え、農場内で無駄になるものがないように循環し、環境に優しい方式を取り入れています。

栽培して収穫した野菜は、週に2回、車に積み移動販売します。新鮮なものを直接、消費者に届ける地産地消を実践しており、大変喜ばれています。

私はこのような地域で、実家の農業と一緒にやりながら育ちました。

私がこの度「道産子高校生ロサンゼルス・ホームステイ・プログラム」に志望した理由は、皆様方が異国の地で培ってきた『パイオニア精神』をつかみ取りたいと考えたからです。

今年、松浦武四郎が北海道に来て今の“ほっかいどう”と命名してから150年となりました。また、ハワイ日本人移民が初めてハワイの地を踏んでから同じ150年という節目の年を迎えました。

今年、8月に札幌で北海道命名150年記念式典が、天皇・皇后両陛下の御列席のもと行われました。私はそこで北海道の高校生を代表して、「青少年の誓い」を読み上げ、将来の夢とこれから北海道のために貢献していくことを誓いました。

そのような式典に参加したことで、今まであまり考えなかった先人達の苦勞や努力を知

りました。森を切り拓き、農地を作り少しずつ人が根付いたからこそ、今の北海道があるのだと実感することができました。

また 1868 年、ハワイにサトウキビ耕地で働く出稼ぎ労働者として約 150 人の方々が集団で移りました。「元年者」と呼ばれ、最初に行った日本人から今年で 150 年です。ハワイでの暮らしでは炎天下の長時間労働や鞭でたたかれるなどし、自殺者や病死者も出て数々の困難があったようです。ハワイで生き抜きその地に日系人コミュニティを形成し、その子孫たちは現在 8 世代にまで広がり、いろいろな分野で活躍していると知りました。

言語も文化も気候も違う異国に移住することは、とても勇気と強い決意がないとできないことだと思います。そのような先人達の苦労や努力の上に今の暮らしがあると思います。私は、皆様から開拓者や移民者と同じように異国の地で頑張っていられる『パイオニア精神』を学びたいと思っています。

私が、渡米したとき是非行ってみたい場所は、「全米日系人博物館」です。

そこで、苦労したことや戦争時代の強制収容所に収監され、過酷な生活をさせられたことなど、日本人移民の歴史を知りたいと思っています。

また、言語も文化も違うアメリカでホームステイすることにより見聞を広め、私自身も新しいことに挑戦し積極的に行動する気概を身に付けたいです。

現在我が家は有機農家で繋がる世界的組織ウーフに加盟し、世界各国からウーファー（農業体験者）を受け入れています。もしこのプログラムに参加させて頂けたなら、私も将来両親が作り上げた農場を受け継ぎ、そこで得た『パイオニア精神』や国際感覚で、世界に発信できる農場運営を目指し、新しいことにチャレンジしていく国際農業人になりたいと思っています。